

6 - 1 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1983年1月～1983年6月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January, 1983 - June, 1983)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

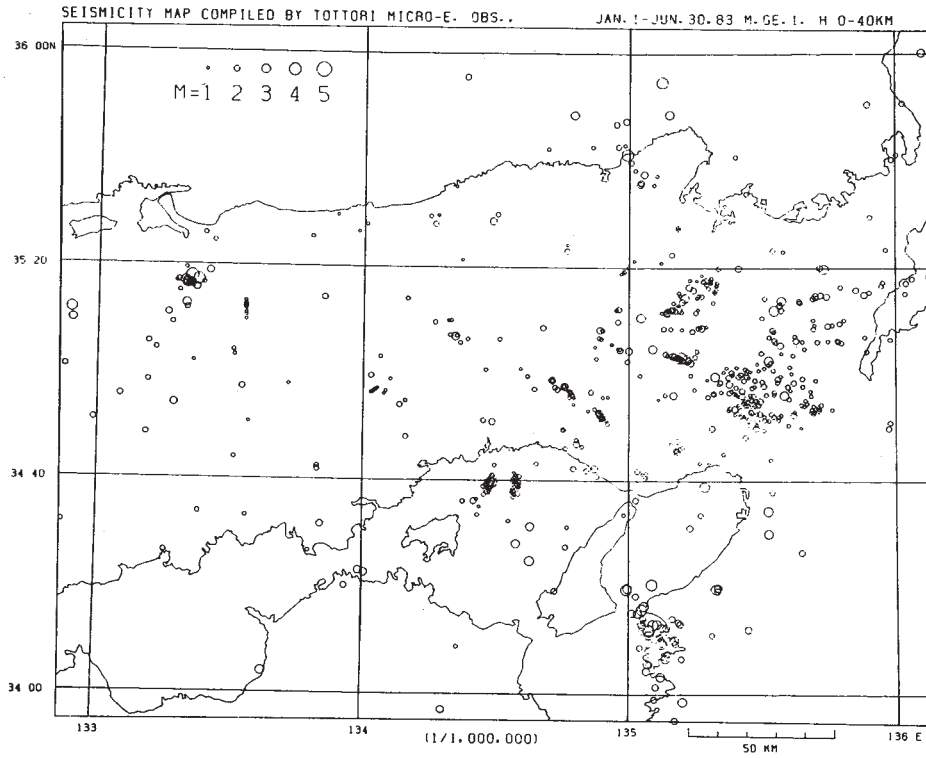
京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake
Observatory, Disaster Prevention Research Institute
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science
Kyoto University

第1図に鳥取観測網の結果を示す。この期間の地震活動度は前回(1982年7月～12月)と同じく一般に低調であった。やゝ目立つ活動としては、米子の南南西約20kmにおけるM～4を始めとする地震活動や、丹後半島周辺のやゝ大きい地震の発生などがある。

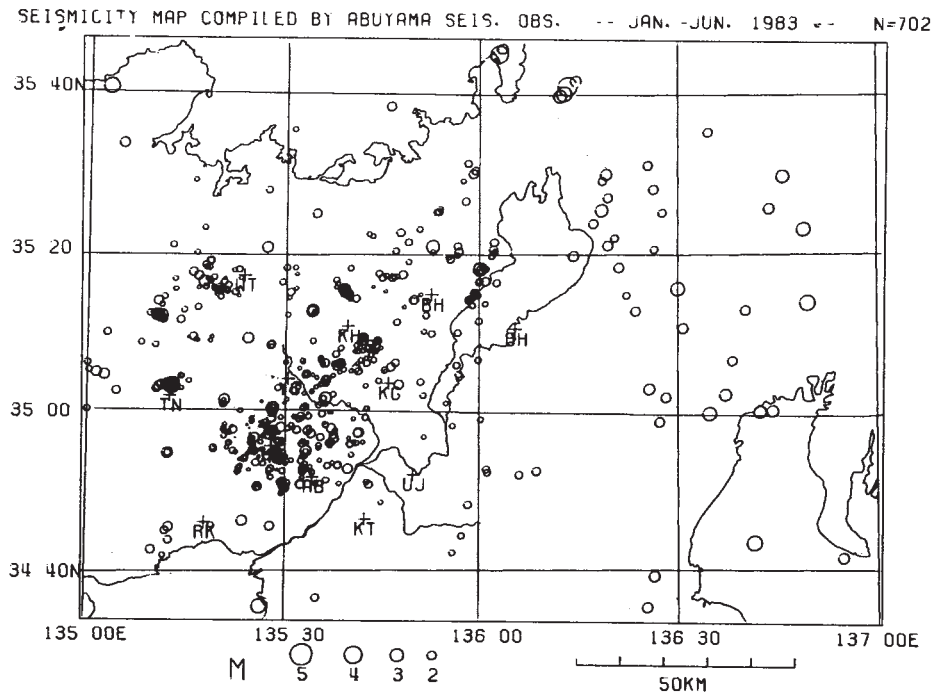
第2図に阿武山観測網の結果を示す。全体の様子は前回とほぼ同じである。一般的に云って、1982年7月頃から、従来空白であった部分が徐々に埋められて行く傾向がある。例えば丹南(TN)の南や京北(KH)の西北西などの地震がそれである。TNの真北2～3kmにM3.5の地震が発生したが、これは1976年1月以来この地域で最大である。

第3図に北陸観測網の結果を示す。全般的には前回とあまり変らない。しかしいくつかの集中した活動が見られる。まず、勝山(36°線の約5km北, 136°30'E)北西約10kmの活動、今庄(36°43'N, 136°18'E)の真南の活動、および敦賀半島の活動である。敦賀半島の活動は最大M5.0(JMAによる)で鯖江で有感であった。今庄南方の活動の最大のものはM4.1(JMA)であった。



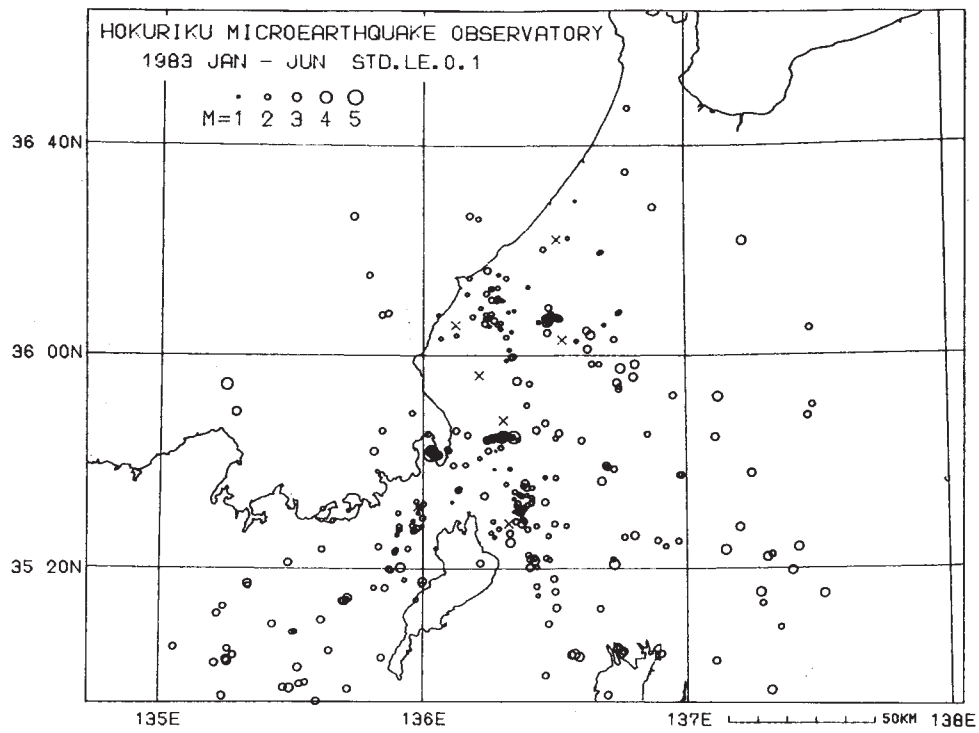
第1図 鳥取微小地震観測所による震央分布図(1983年1月~1983年6月)

Fig. 1 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory (January, 1983 - June, 1983)



第2図 阿武山地震観測所による震央分布図(1983年1月~1983年6月)

Fig. 2 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory (January, 1983 - June, 1983)



第3図 北陸微小地震観測所による震央分布図（1983年1月～1983年6月）

Fig. 3 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory (January, 1983 - June, 1983)